

石川ブロック 平成20年度 第2回委員会における意見に対する対応表

No.	前回委員会意見	対応内容	対応箇所・時期	記載の有無(頁)		
				現状と課題	目標	
平成20年度 第2回委員会意見	1	正常流量の説明の前に、滝畑ダムに唯一の水源を依存している現状において、頻繁に取水制限等が行われている等の説明が先にあった方が良い。	現状の水利用の説明等を加えるような形で整理していく。	前回：利水の目標 今回資料：利水の現状と課題	● (17, 18)	
	2	正常流量を示すと、達成の可否が問題になるが、特徴のある植物でみた場合に幅を持った数値になるのではないかと。景観と違い、動物・植物は、定点の数値的なもので考えない方が良い。	魚類に限らず、生き物によって幅があることも一度検証してみたい。	今後、水利権の整理と併せて		
	3	タンクモデル定数をブロック単位でどうやって決定したのか。還元流量をどう設定したのか。	流量観測地点でタンクモデルを構築し、各ブロック単位の平均雨量・流域面積、各支川の各井堰に掛かるかんがい面積を用水系統に沿って整理した上で、減水深・還元量を設定し、各ブロックの流量を求めている。	今回資料：利水の目標	● (22)	
	4	(維持流量は、) 河川環境を示す水深・流速で評価すべきであって、(極端に言えば) 流量は大事ではないのではないかと。河床形状の整備で考えられないかと。(オペレーションの話)	維持流量の検討について、河川環境の物理環境を確保できる流量のみを目標とせず、河川整備に活かす方法等、個々の要因に即して対策を考える等、さまざまなアプローチを検討していきたい。	今後、水利権の整理と併せて		● (36)
	5	エリアの特性を説明する断面図は、デフォルメしないで正確なものとする。	断面図を修正し、スケールを明確に表示する。	河川環境の現状と課題(今回資料)	● (42~)	
	6	植物に関する記述を充実させること。同じエリア内でも状況は様々なので、丁寧に拾い上げられると良い。	植生の分布状況がわかる図面を追加し、植生に関する記述を補足する。	河川環境の現状と課題(今回資料)	● (42~)	
	7	課題については、課題としての表現の仕方をする必要がある。語尾を「保全が必要」、「作ることが必要」、「活用が必要」といった表現とすること。	課題に関する記述を修正する。	河川環境の現状と課題(今回資料)	● (54)	